

1 学校教育目標
<p>基本的人権の尊重に基づき、生徒一人一人に対して深い愛情と理解をもって、生徒一人一人教育的ニーズに応じた「最適な指導・支援や合理的配慮」を行い、徳（豊かな人間性）・体（健康と体力）・知（確かな学力）の調和の取れた生きる力を備えた総合的人間力の育成に努める。 また、郷土に思いを馳せ、生涯にわたって郷土に誇りを持てる人材に育てる</p>

2 本年度の重点目標
<p>1 確かな学力を育成し、自己実現を図る態度を育む</p> <p>(1) 主体的・対話的で深い学びの中で、思考力、判断力、表現力を育むとともに、生涯にわたって学び続ける態度を養う。</p> <p>(2) 生徒一人一人に応じた指導・支援を実践し、学力の基礎・基本を定着させる。</p> <p>(3) 望ましい勤労観・職業観を育成し、一人ひとりに応じた進路指導を行う。</p> <p>2 道徳性と豊かな情操を育む</p> <p>(1) 心に響く多様な指導を通して命を大切に作る心や他者を思いやる心を育む。</p> <p>(2) 規範意識を身に付け、善悪を判断し、自ら律する力を育む。</p> <p>(3) 我が国と郷土の歴史や文化・伝統を尊重する態度とグローバルな視点を育む。</p> <p>3 心身の健康と自己を管理する態度を養う</p> <p>(1) 基本的な生活習慣と正しい食習慣を身に付けさせる。</p> <p>(2) 運動に親しむ態度を育み、体力を向上させるとともに、豊かなスポーツライフを実現・継続するための資質・能力を育む</p> <p>(3) 生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、安全で安心な社会づくりに貢献できる資質・能力を育む。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	○成果と●課題	
大項目	小項目					
学校経営	カリキュラムマネジメントの実践	スクールミッション及び重点目標が示す「資質・能力」の育成	<ul style="list-style-type: none"> 重点目標及びスクールミッションの達成に向けた全方的教育活動の実践 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な通信制運営を見据えた業務を各部署で実践するとともに、委員会組織を効果的に活用する。 キャリア教育の充実を図り、生徒個々の自己管理能力を高める。 教育目標の具現化に向け機に応じた職員研修の充実を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○委員会組織が効果的に機能し県教委と連携しながら課程独自の課題を共有し検討することができた。 ○キャリアパスポートを活用した取組ができた。自己管理能力の向上についてはアンケートから保護者86%である一方で生徒は生徒66%と認識の差が見られた。 ○職員研修はアンケートからA・B評価併せて18%増(R5は82%)となった。
		選択の幅を広げる教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程導入を滞りなく進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 受講マニュアルの改善につとめる 評価基準に対応できるレポートの作成。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○2025年度の新教育課程完全移行に伴い教育課程検討委員会を数回開きマニュアルを改善することができた。 ○各教科の評価基準を提出し基準に沿ったレポートの改善に各科努めている。
	教育目標の具現化に向けた学年経営	1年教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 通信制の学習スタイルの習慣化。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒への声かけを積極的に行い、学習や生活面で保護者とも連携する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○個別面談を行い、生活面や学習面での生徒の状況把握に努めた。また学習会への参加を呼びかけ適宜学習の

学校 経営		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に寄り添い生活面・学習面双方の規範意識を高める。 ・1年次進級率65%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任面談を適宜行い個々の状況を把握しながら生活面・学習面での指導や支援を行う。 ・学年会等で生徒の情報を共有する。 	B	<p>支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○支援が必要な生徒には個別の支援計画を作り保護者と連携しながら個に応じた支援を行った。 ●ほとんど登校できない、連絡が取れないなどの理由で単位修得に至らない生徒が多くいる。 ○学年会等では生徒の情報共有に努めた。 ●2月初めの進級予定率は64.3%となった。
	2年教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解の推進 ・規範意識の醸成 ・2年次進級率75%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会等での連携と情報共有。 ・生徒への声掛けを積極的に行い、学習や生活面で保護者とも連携する。 ・担任面談を適宜実施し学習・進路・生活指導の中から規範意識を醸成し学習活動の活性化に繋げる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒情報は学年会で共有し支援が必要な生徒には個別の支援計画を作り定期的に生徒・家庭へ連絡をするなど個に応じた支援や連携を継続することができた。 ○学習会参加を積極的に呼びかけ殆どの日に10人以上が出席し頑張った。 ●なかなか登校できなかつたり連絡が取れなかつたりする生徒が各クラスに複数名おりレポート提出ができず単位を修得できなかった生徒も多くいる。 ○2月初めの進級予定率は81.5%で目標を上回った。
	3年教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望の実現。 ・3年次進級率80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者との面談や連絡を密に行い進路希望に応じた指導を適切に行う。 ・卒業・進級のためにレポート提出に遺漏がないよう注意喚起する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○担任面談を実施し、生徒の学習・進路・生活指導を行った。進学では国公立大学に2名合格した。 ○支援が必要な生徒に対して個別の支援計画を作成し、登校できない生徒に対して電話で様子を伺い個に応じた支援を実施した。 ●進路の未定の生徒に対して継続して指導していく。 ○2月初めの進級予定率は88%で目標を大きく上回った。
	4年教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望の実現。 ・4年進学率75%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との面談を密に行い、生徒の進路希望に応じた指導を適切に行う。 ・三者面談を通して保護者との共通理解を図り、最善の進路指導を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○進路や卒業について個人面談を行い、生徒の状態を把握しながら適切な指導を行うことができた。 ○三者面談の実施や電話連絡等で保護者や本人との調整を行うことができた。

学校 経営				<ul style="list-style-type: none"> 卒業に向けて、早期のレポート提出を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●卒業率は70%。レポート提出が間に合わないなど卒業できない生徒が生じた。
	教育目標の具現化に向けた学年経営、協力校	協力校教育活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> 鹿本協力校 天草協力校 芦北協力校 人吉協力校 	<ul style="list-style-type: none"> 通信制の生活と学びの修得に向けて面談等を実施する。 基礎的基本的な学力向上のため自己管理能力を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任による二者面談を前期に1回～2回は行う。 学習状況通知書を配付し、面談を通じて振り返りを行う。 レポートは「授業後1週間内提出」を目指し声かけを行う。 進路達成に向けて、担任、生徒、保護者の三者面談を実施しながら、支援、アドバイスをを行う。 	B <ul style="list-style-type: none"> ○担任による二者面談は前期後期に各1回実施できた。 ●協力校での面談は時間・職員数共に限られており機会の確保が課題。担任外の職員との連携が必要である。 ○天草協力校では特別活動の見守りを教科職員と連携して行うことができた。 ●レポート提出状況は各協力校や個人でばらつきがあり声かけが難しかった。 ○卒業学年は三者面談を前期1回以上実施し、進路活動に繋げることができた。
	広報・募集活動の推進	本校通信制教育のシステム・特色等の周知徹底	<ul style="list-style-type: none"> 入学者（新入学・転編入学）数の現状維持を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験入学及び学校説明会の実施については、実施日以外にも柔軟な対応を行う。 上記案内を県内高等学校・中学校へFAX・メールで確実に連絡する。 ウェブサイトや『図南』を活用した広報を充実させる。 電話質問等には丁寧に対応する。 	A <ul style="list-style-type: none"> ○体験入学及び学校説明会には242組（R5より10名増）が参加した。また各種相談には柔軟に対応し、協力校でも説明会を実施した。 ○県内中学校へはFAXで案内しているが、次年度以降はメールでの案内に切り替える予定である。 ○HP更新は協力校も含め積極的に行うことができた。また広報誌『図南』も様々な活動を掲載し広報活動に活用することが出来た。 ○新転入学等の各種問い合わせが急増した。窓口は主に教務主任と転編係だが職員の協力もあり機に応じた丁寧な対応ができています。
業務改善	校務の見直しとPDCAサイクルの実践。	<ul style="list-style-type: none"> 校務の平準化と業務改善の検討実践。 	<ul style="list-style-type: none"> 月毎の勤務状況や課題を衛生委員会で共有し具体的改善策を検討する。 校務DXについて各部署・委員会での検討を進める。 	A <ul style="list-style-type: none"> ○年2回の業務改善で具体的な検討を行いデスク周辺の整理整頓で業務スペースの確保に繋げるなど職場環境を改善することができた。 ●超過勤務該当者が固定化し100時間超の状況がある。 ○衛生委員会・放送教育ICT推進委員・百問繚乱検討委員会が機能し具体的な取組に繋げることができた。 	
	教職員のICT活用能力等の向上	<ul style="list-style-type: none"> 職員のICT活用能力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティに関する職員研修で個々の活用能力や理解を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報セキュリティについては県教委の通知の際だけでなく、課程の現状に応じて適宜研修や注意喚起を継続 	

学校経営			<ul style="list-style-type: none"> ・校務ペーパーレス化の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種会議や集会等でGoogle Meet等を利用した実践を全職員ができるようにする。 	A	<p>的に行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校内配信は各種説明会や行事等だけでなく猛暑日や極寒日等での対応においても適宜実施し、教育活動全般に渡り組織的に活用を進めることができた。
働き方改革	段階を設けた校務DXの推進		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アカウント配付によるChromebookの配備と運用の始動。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐーるの本課程方針の整備 ・端末配付によるclassroomの整備。 ・Handy進路室の導入による就職支援体制の整備。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○すぐーる登録に伴う安心安全メールの終了措置までを整備することができた。 ○全職員端末配備、前後期共にclassroom登録ができた。 ○進路指導部でHandy進路室を導入し、希望制で活用することができた。
	時差出勤の導入		<ul style="list-style-type: none"> ・個々の勤務体制や働き方の構築。 ・相互理解の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択制の時差出勤を職員全体に共有し新たな職場風土作りを推進する。 ・ノー残業デーの検討。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○月平均10名が時差出勤を利用し個々に応じた出退勤の形が定着した。 ○通信制全体ではノー残業デーの一斉設定が難しいため「MY No 残業 DAY」を新たに設定し運用した。
学力向上	生徒の自己管理能力の向上	レポートの提出率および進級・卒業率の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目レポートの未提出率を前年度より減少させる。 ・レポート提出率を前年度比5%増を目指す。 ・全学年の進級率を80%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員による丁寧なレポート添削や、学習会を活用したレポートの作成支援を行う。 ・登校毎に学習状況通知を配付、生徒の自己管理能力の向上を目指す。 ・学習意欲向上に向け、学習補助教材を学校ウェブサイトに掲載。NHK高校講座のQRコードも学習補助教材に掲載。 ・欠席者への資料送付など情報発信を工夫し、周知徹底する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●第1回目レポートの提出率は前年度比で0.2ポイント減少(85.8%)全体の提出率も減少している(75.9%)。この数字が進級率とほぼ同じになると思われる。 ○「学習状況通知」(紙配付)をすぐーる配信へ移行する整備が出来た。生徒・保護者の端末へ直接届くことで自己管理能力の更なる向上に期待したい。 ●学習補助教材は現在ウェブサイトに掲載しているが今後はクラスルームの活用等も検討する。 ○学年別クラスルームを開始し90%以上が登録した。欠席者にも学校連絡が確実に届く手立てを構築することができた。

<p>学力向上</p>	<p>学習会・模擬試験の活用推進</p>	<p>学習会や模擬試験の活用による進級率向上と進路実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導室来室者数、年間延べ100名以上。 ・模擬試験受験者数前年度以上。 ・学習会の活用を通し進学、就職者決定者数の増加を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習会の午後の時間帯を活用し、個別の進路相談に応じる。 ・学習会「レポート合格コース」で、生徒の質問を受け付け、自力でレポート課題の仕上げが難しい生徒を支援する。 ・学習会「大学受験コース」で、模試受験者に対する過去問対策等の指導を行う。 ・キャリアサポーターによる通信制生徒の就職相談を実施する。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今年度新たに進路指導室を整備し面談や来客対応等、様々な進路指導に役立てることができた。使用者は生徒だけでも延べ100人を超え各社相談や個別の対応等に有効活用できた。 ○「レポート合格コース」の平均生徒出校数は50名となり、多くの生徒が登校しレポート作成等に取り組むことができた。 ●「大学受験コース」は少数参加となった。進路目標が多様なため一斉指導が難しく週1時間の限られた機会でもどこまで成果を上げられるかが今後の課題である。 ●模擬試験の受験者数は129名で(R5は141名)やや減少した。 ●今年度はキャリアサポーターによる就職相談の事例はなかった。
<p>確かな学力を育む授業改善</p>	<p>主体的・対話的で深い学びの実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に「学ぶ楽しさ」を実感させ、知的好奇心の育成に繋げると共に生涯学習の基盤を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面接の際の「問い」の工夫により、考えさせる授業を展開する。 ・主体的な学びの育成に向けた、観点別評価を実施する。 ・校内研修（模擬授業・実践発表）を実施し、授業全体のレベルUPを図る。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教科で問いを意識させるレポートを作成し、見直し振り返りを取り入れることで主体的な面接指導に活用することができた。 ○実技教科ではグループワークを入れ主体的・対話的な学習活動を展開した。 ○作成した評価基準をより通信制に適したものにすため今後も改良を続ける。 ●生徒アンケート「面接指導は自学・自習や学力向上に役立っている」は昨年度より3%減少。今後も思考の深化の取組は各教科で工夫を継続する。 ●校内研修は実施できなかった。次年度は面接・レポート指導における資質向上の機会を設ける予定である。 	
	<p>教科横断的な学びの実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの社会に向けて、文理融合教育を進める。 	<p>レポート作成の際、教科横断的な学びを意識した設問等を作成する。</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○総合的な探究の時間は個々の活動だけでなく、自然科学・人文科学分野を横断させた課程独自のフィールドワークができた。数年に渡る様々な実践を九州大会で研究発表し総括した。 	

<p>学力向上</p>		<p>ICTを活用した授業実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実技を伴わない教科でのICT活用率8割。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットや実物投影機を使用した授業実践を共有する。 ・生徒用タブレットの利用を進める。 	<p>○国語・情報・地歴公民・芸術等、新教育課程のレポートで教科横断的な問題を出題することができた。</p> <p>○教員のタブレット等ICT機器は利用頻度が増えてきている。</p> <p>○協力校の「情報」で生徒用タブレットを使用している。</p> <p>B ○協力校は全生徒にタブレットを配備し自宅持ち帰りも希望制で開始した。</p> <p>●本校生は端末数不足により一人一台端末の完全配備には至っていない。</p>
<p>キャリア教育</p>	<p>進路意識・職業意識の向上</p>	<p>入学時からの計画的・組織的進路指導の実施による生徒の進路意識・職業意識の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路行事参加者の前年度以上。 ・情報のICTを推進し、より効果的な情報提供を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア研修等、マナー講座等、進路に関する行事を整理し、体系的な進路指導を行う。 ・進路便りや進路室前掲示コーナー、各クラスへの配付物による情報の提供を充実させる。 ・GoogleDocument等の活用で学校説明会等の進路情報を提供し生徒の参加の機会を増やす。 	<p>○キャリア研修など県教委と連携した新たな行事を実施することができた。</p> <p>○合格体験発表会・2学年進路説明会は前年度を大きく超える生徒参加数となった。</p> <p>○進路便りを2回発行した。また、進路室前の掲示板を整理して見やすくするなど、情報提供の充実を図った。</p> <p>○Googledocumentを活用し、オープンキャンパス等の進路情報を行うなどICTを活用した情報提供ができた。</p> <p>●生徒アンケートで「卒業後の進路目標を持ち、目標達成のため努力している」が64%と昨年度をやや下回った。</p>
	<p>進路決定率の向上</p>	<p>生徒の希望を大切にした進路実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新規学卒求人を利用した就職内定者及び大学等合格者数前年度以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Handy進路指導室の導入と職員研修による就職支援の充実。 ・進路指導室の来室記録を残し、多くの職員が指導の機会を持つことができるようにする。 ・生徒のニーズに応じた進路相談、学習支援の充実のため、若者サポートステーションや 	<p>○Handy進路指導室を新たに導入し、自宅でも求人票を検索しながら就職活動を進める環境整備ができた。</p> <p>○高卒求人を使用した就職内定者数は2月初めで13名(R5と同数)であった。</p> <p>○障がい者雇用枠での就職希望者に対し、熊本ヤングハローワークの就職促進指導官と連携した就労支援を行うことができた。</p> <p>○進路指導室の来室記録を残し進路指導部と担任や学年が連携して指導を行うことができた。</p> <p>○上級学校合格者は2月初めで39名(R5と同数)。国公立は2月段階で昨年度以上の合格者数となっている。</p>

				ジョブカフェ等専門機関との連携を図る。	
生徒指導	生徒の主体性の向上（自主・創造）	生徒会活動など、生徒が主体的に参加できる行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> 行事等への参加率前年度比10%増。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部の組織活性化を図る。 生徒が参加できる、参加したくなる行事内容へ工夫改善する。 生徒・保護者へのスムーズな情報共有と連絡事項の周知徹底を図る。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒会の生徒を中心に活発に学校行事を実施することができた。 ○校内行事の充実だけでなく九通研生徒会交流会等の校外行事にも積極的に参加し、他校との交流や意見交換から自校の工夫改善に役立てることができた。また校内では新たに募金活動も始め多くの協力を得た。 ○「ゆうつつ新聞」やポスター等を活用し、各種行事の周知や報告等の広報活動を行うことができた。
	法令遵守と規範意識の向上	法律やマナーを守る意識、規範意識の育成	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識を高め、特別指導件数を減らす。 公共のマナーに対する意識を涵養する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に生徒部通信を配付し、個々の規範意識を醸成するとともに家庭への周知徹底を図る。 地域との連携を通じ、校内外の巡回を強化する。 関係機関との連携を強化する。 内規の見直しを行う。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒部通信を発行し、SHR時に放送連絡を行った。また安心メール・classroomすぐー等あらゆる手段を活用し注意喚起や規範及び交通安全意識の高揚を図った。 ●特別指導の件数は前年度を大きく上回った。(R5: 17件→R6: 30件)。入学、転編入学時において、法令遵守や規範意識について生徒や保護者に更に強く訴えていく必要がある。 ●地域巡回は重ねて行っているが近隣から御意見が多く寄せられ課題が多い。 ○警察による闇バイトに関する講話を実施した。 ○内規は改定予定である。
人権教育推進 ～道徳性と豊かな情操～	互いを尊重する人権教育の推進	他者の考えを理解し共感する能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 校内生活体験発表会や定通文化大会への意識を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 大会趣旨や参加意義についてLHR等を活用して生徒に伝え前年度を上回る参加率を達成する。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活体験発表では各発表者が自分の苦しかった経験やそれを克服した現在の姿などを発表した。生徒達は、自分の経験と重ね合わせながら自分の事として真剣に受け止める姿が見られた。日曜面接の参加は昨年度より15名増となった。 ●定通文化大会の趣旨や参加意義については伝えたが、参加者は昨年度から2名増にとどまった。協力校生徒の参加は距離的に難しい状況がある。

<p>人権教育推進 ～道徳性と豊かな情操～</p>	<p>命を大切に する心を 育む指 導</p>	<p>全ての教育活動を通じた、生徒・職員の自他尊重の感覚の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重を基盤にした授業、特別活動の実施。 ・職員の人権感覚と実践力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿った生徒向け講演実施 ・啓発資料を発行し活用する。 ・全職員参加の校内外研修を計画的に実施し、研修後の情報共有を行う。 ・生徒会と連携し「命を大切に する心を育む取組」を行う。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人権教育講演会を実施し「インターネットと人権」に関する啓発動画でネットトラブルについて身近な例から学ぶ機会を設けた。 ○危機管理・安全管理関連のロールプレイを入れた実践的な校内研修を実施し校内設備も改めて再点検した。 ○長年の課題であった危険箇所等は事務部と連携し窓枠ストッパーやベランダ等の工事で安全な環境を整備することができた。 ○校外研修への一人一回の参加を実施し、職員の人権意識の向上を目指した。 ○生徒会が登校日に昇降口に立ちQRコードを提示して「心の健康観察」への入力呼びかけた。
<p>いじめの防止等</p>	<p>いじめ等の問題行動の未然防止</p>	<p>生徒指導・学年部を中心に組織的対応の徹底</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育面談の強化。 ・年2回の全体調査及び個人面談実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止に関する職員研修実施。 ・生徒会と連携し、いじめを許さない風土作りを行う。 ・定期的な担任面談巡回指導、登校指導等を徹底する。 ・生徒間の問題等は組織的に情報共有し、連携した生徒支援を行う。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止に関する職員研修を実施し「いじめ未然防止の意識付け」を行うことができた。 ○生徒会で「いじめを許さない行動指針」の検討を進めることが出来た。 ○安全な教育活動のため校内巡回計画を立て、面接指導日は全職員で巡回を行い気づきを共有した。 ○生徒アンケートからいじめの不安を有する割合が4%減(R5は23%)となったが、今後も安心して登校できる取組が必要である。 ○いじめ防止等対策委員会を10回以上開催し組織的な課題共有ができた。 ●連絡遅滞が本課程の課題であるため今後はすぐ一を 活用し生徒や保護者との連携や信頼関係構築をより確かにする必要がある。 ●職員集団の連携や関係機関との確実な連携をより一層行う必要がある。
<p>生徒理解及び生徒支援</p>	<p>生徒相談、生徒理解の充実</p>	<p>学級の枠を超えて学校全体で相談できる体制の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・半期1回以上の個人面談の実施。 ・生徒理解研修の充 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全メールを活用し、生徒、保護者への相談窓口を周知する。 ・生徒全員の定期的な担任面談実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的にメールやGoogle classroomを通して相談窓口を周知できた。 ○後期より新たにスクーリング時の健康観察を端末入力で開始し心の健康状態と面

			<ul style="list-style-type: none"> ・SC・SSW活用の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解研修を年2回実施し、生徒情報共有する。 ・職員とSC・SSWの効果的な連携のもと継続的な現状把握を図る。 	A	<p>談希望を始業前にリアルタイムで把握することで、担任面談や組織的支援に速やかに繋げることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●担任面談は生徒の登校状況により回数等の差が生じるため、学年会での情報共有を更に行う必要がある。 ○生徒理解研修では全職員で配慮事項などを共有した。また必要に応じて朝会等で随時共有し個別の支援に繋げることが出来た。 ●生徒理解研修等での共有内容が生徒への対応に十分活かされていないケースもあった。 ○SC・SSWと情報共有を継続し生徒の支援に繋げていくことができた。
特別支援教育の推進	特別支援教育委員会の充実（生徒情報の把握理解・支援について協議）	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な個性・特性のある生徒の理解を深める。 ・定期的な協議のもと効果的な対応を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育推進委員会(月1回)を開き、各学年の生徒情報を共有・支援を検討する。 ・関係校、関係機関と密に連携する。 ・個別の教育支援計画・指導計画を確実に引継ぎ、立案し作成する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育委員会は月1～2回、年間10回以上実施し生徒の情報共有や支援の検討を行うことができた。 ○関係校や関係機関と連携し生徒支援に繋げることができた。 ○個別の教育支援計画・指導計画は項目毎に締切を設け100名超を都度更新し支援に活かすことができた。 ○支援を要する生徒を学年や委員会を通して情報共有し担任と連携しながら支援していくことができた。 ●生徒の心身の状況を全て把握するには至っておらず、日が経ってから診断や病状を知ることがあった。 	
生徒理解及び生徒支援	特別支援教育支援員の活用を含めた学校全体の支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・支援対象生徒とその周囲の生徒がともに安心できる環境整備を図る。(生徒理解推進・職員の対応力向上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年部と連携し、機に応じたケース会議を実施・充実させる。 ・対象生徒や保護者のニーズを捉え、寄り添った支援を実施する。 ・外部講師を招いての職員研修を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学年部と連携し、スクーリングや考査時の配慮等で学校生活の支援に繋げることができた。 ○委員会に特別支援教育支援員が毎回参加し平素から情報共有を密にすることで、生徒個々に寄り添った丁寧な対応を継続することができた。 ○思春期精神保健福祉研修会等の復講研修で生徒理解を深める場を設けた。校内研修については県教委からアドバイスを頂く機会を得る 	

					ことが出来た。次年度は招聘研修を実施予定である。
地域との連携 (コミュニティスクール等)	熊本地震や豪雨災害、落雷事故等の教訓を踏まえた、防災意識向上と地域連携の強化	防災意識の向上及び地域と一体となった災害時の連携体制の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携を強化した避難所運営の準備を行う。 ・生徒・保護者への啓発実施。 ・三課程で情報共有し、対策を統一する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や具体的な想定をイメージした研修や啓発を図り、職員の防災意識を向上させる。 ・落雷防止の呼び掛けを行う。 ・ぼうさい通信とHPの連絡充実を図る。 ・地域と連携を深め、実際に行動できるための訓練を実施する。 ・各教科の学習内容に関連した防災教育研修を行う。 ・防災関連チラシによる啓発を行う。 	<p>○防災避難訓練の参加生徒が大きく増加した。事前のポスター掲示や担任指導等もあって、生徒アンケートではA・B評価併せて9%増(R5は53%)となり、防災意識の向上が見られた</p> <p>●職員の防災意識はアンケートからA・B評価併せて18%減(R5は92%)となった。</p> <p>○年度当初に落雷予防の職員研修を行い雷ナウキャストの周知を行った。</p> <p>○HPで協力校面接時の対応等を新たに整備した。</p> <p>●ぼうさい通信の発行が16日以降となるがあった。毎月16日発行と設定された趣旨を踏まえて発行日を守っていくよう三課程での業務の確認と連携を行う。</p> <p>●自然災害に特化した研修は未実施。</p> <p>○重要情報はぼうさい通信で扱うことが多かった。啓発は今後も継続する。</p>
保護者との連携	生徒・保護者・職員間の共通理解の深化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や生徒についての情報共有。 ・保護者会・担任面談の充実。 ・保護者に信頼され相談しやすい体制作り。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全メールやHPを活用した保護者への連絡を行う。 ・計画的な保護者参加の呼びかけや、面談の際に具体的な話をするための担任の準備を確実に行う。 ・相手の立場に立った丁寧な文書の作成や電話対応の実践 	<p>○安心安全メールとすぐーるを活用し必要な連絡を行うことができた。</p> <p>○保護者会への参加人数はR4(73)、R5(96)、R6(117)と年々増加し教育への関心の高さが見られた。また学級懇談後に担任との面談も行うことができています。</p> <p>●学校からの発信事項が伝わっていないこともあった。丁寧な文書作成や電話対応について職員で課題を共有し更なる工夫改善を行う。</p>	

4 学校関係者評価
<p>1 ヤングケアラーが心配される。生徒の家族構成や実情等を踏まえて、目配り気配りをしてほしい。いじめ防止対策についても生徒の心身に影響が及ぶようなことになる前に解消をしてほしい。</p> <p>2 地域の行事に快く協力をいただき感謝している。地元としても何か学校側に恩返しをしたい。</p> <p>3 単発的ではなく、年間を通したボランティアを進めてはどうか。心構えなどを学べる場があるので、是非サークルなどを作ってほしい。</p> <p>4 アルバイトをしている生徒が大変よい印象で、本校の通信制と聞いて言葉を交わすことができ、大変うれしい思いをした。ソーシャルスキルトレーニングなど、機会を活用してコミュニケーション能力を高めていくことが大切だと感じている。</p> <p>5 先生と生徒が同じ方向を向くことが大切だと思っている。一つの学校として保護者がアクションできるような場(窓口)があるといいと思う。</p>

5 総合評価

1 本年度の学校教育目標

8つの大項目に設定した「29の評価の観点」において、A評価→17、B評価→12 C評価→0 D評価→0の結果となり、特に「学校経営」「キャリア教育」「生徒支援」の項目にA評価が増加した。特に、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた「最適な指導・支援や合理的配慮」を行うという目標は特別支援教育推進委員会が効果的に機能した。学校目標は概ね達成できたと考える。

2 本年度の重点目標における取組

○確かな学力を育成し、自己実現を図る態度を育む取組

- ・「総合的な探究の時間」九州大会研究発表・協力校一人一台端末配備・Handy 進路室導入
- ・進路室整備・キャリア研修新規実施（県半導体事業連携）・全職員体制での小論文指導開始

○道徳性と豊かな情操を育む取組

- ・県警による闇バイト講話実施・生徒指導部通信発行

○心身の健康と自己を管理する態度を養う取組

- ・心の健康観察開始・生徒アカウント配付・classroom 運用・心のアンケートWEB化

○その他の取組

- ・全職員へ端末配備・時差出勤開始・MYNO 残業デー運用・すぐーる導入・デジタル採点開始
- ・学習状況通知の配信・学校評価アンケートWEB化・校内行事の配信実施
- ・窓枠ストッパー及びペランダ等工事による安全環境の整備
- ・定通文化大会事務局業務（R5～6）完了・全通研熊本大会事務局立ち上げ

3 総合評価

前後期ともに生徒数が増加を続け、職員未配置や端末配付等の事情も加わり、全方向において業務が増大し、これまでの方法を踏襲するだけでは教育活動を継続するに困難な状況となった。しかし、その中でも各種委員会が横断的に機能し、県教育委員会に指導助言を受けながら、具体的な取組を実施し、持続可能な通信制の構築に大きく舵を切ることができた。校務DXは全教育活動に敷衍し、生徒・保護者と新たな形で繋がる環境を整備することができた。学校評価アンケートからは昨年度を大きく上回るコメントが寄せられ、通信制は月数回の限られた機会であるが、登校して学ぶこと、人と繋がること等への高評価が見られた。今後とも一人ひとりの自己実現に向けて課程上げて邁進していきたい。

6 次年度への課題・改善方策

1 大項目「学力向上」小項目「生徒の自己管理」については、今後も生徒の実態に応じたきめ細やかな取り組みが求められる。本課程の1番のネックは各種生徒連絡の浸透性である。端末を活用したタイムリーな連絡と並行して、個に応じたキャリア指導を充実、生徒の自己実現を具体的に支援していくことが柱の一つである。

通信制課程は独特の学習計画であるため、現在わかりやすい学習手帳作りを進めている。

学習手帳を開けば、安心して学びを継続できるような工夫改善を進めていきたい。

2 今年度の大きな課題は、外部より増加し続ける問い合わせの多さである。1日中何台もの電話が鳴り響き、職員担当を輪番制にしないと追いつけないほどである。体験入学や学校説明会も申し込みはすぐに飽和状態となるため、ICTを活用した外部対応のあり方をICT委員会・生徒募集対策委員会で検討しているところである。

3 次年度から2年間に渡り定通体育大会の事務局、全通研熊本大会の事務局が始動する。スムーズな大会運営ができるよう体制を整備していきたい。